地理学教室便り（2016年度）

本誌『お茶の水地理』52号より，地理学教室教員が編集を担当し，毎年刊行してきましたが，ＯＧからなる同窓会と，現教員を中心とする地理学教室の共同の発表の場として，これからも紙面が構成されていくことになります．毎回この教室便りの欄で，本学の教育・研究コレクション「TeaPot」を紹介していますが，そこでバックナンバーをすべて読むことができます(URL http://www.lib.ocha.ac.jp/oab/26chiri/listOfIssue.html)．現在でも本誌の新旧の論文，卒論・修論要旨等の中で、ときどき「TeaPot」月間・週間のダウンロード・ランキングに載るものがあります．

2016年度の地理学教室の構成員を紹介します．専任教員は，これまでと同様，学部地理学コースに水野，宮澤，長谷川（主任）の３名が，グローバル文化学環に熊谷がそれぞれ在籍し，10月より倉光ミナ子助教が新たに着任しました．大学院博士前期課程ジェンダー社会科学専攻地理環境学コースでは，専任教員として熊谷（代表)，水野，宮澤，長谷川，10月より倉光の５名が，そして兼担教員として開発・ジェンダー論コースの小林教授（国際関係論)，荒木准教授（開発研究，アフリカ地域研究）が，教育・研究指導を担当しています．これら７名の教員は全員，大学院博士後期課程ジェンダー学際研究専攻の教員です.水野は,2015年度に引き続き，2016年度もジェンダー社会科学専攻長を務めました．地理学教室事務室のアカデミック・アシスタント（ＡＡ）は，前期には古野，橋本，後期には古野,岩崎が担当しました.お茶の水地理学会事務局は，東野が担当しました．

2016年度の非常勤講師の先生方は,以下の通りです．学部のコア科目・ＬＡ（リベラルアーツ）において，鈴木智恵子，吉岡由希子，伊藤修一，伊藤有加，片岡久美（以上，情報処理演習）の各先生方，地理学コースの専門科目では,三橋浩志(地理環境学演習II),佐々木リディア（地理環境学演習III、地理学フィールドワークＢ)，吉田容子（地理環境学演習IV)，齋藤元子（地理学英書講読)，小堀昇（地図学)，早川裕弋（環境地理学基礎演習)，今野絵奈，伊藤修一,横山俊一（以上，地理学フィールドワークＢ)，大学院では山根拓（地域調査方法論演習）の各先生方に担当していただきました．講師の先生方には，この場を借りてお礼申し上げます．

学部地理学コースの学生は，２年生が12名，３年生が12名，４年生が10名でした．進学者数が年度によって上下しますが，10名前後で推移しています．地理環境学副プログラム（他のコースを主としつつも，副専攻として地理学のプログラムを選ぶ）の学生が，３年生が２名，４年生が７名となっています．また本学が短期，長期の海外留学を促進していることもあり，本コースでも２名が長期留学から帰国（イタリア，イギリス）しました．春季や夏季の短期留学を利用して，海外で勉強してきた学生が何人かいます．学部地理学コースでは，海外提携校への長期留学と地理学コースの必修科目の履修調整を行い，４年間で卒業できる履修モデルを開発し，留学しやすい教育環境を作りました.今年度卒業した８名の学生の進路は,民間企業（６名)，法人（１名)，進学（１名）でした．大学院博士前期課程では５名が，博士後期課程では１名が新たに入学し，院生数は全部で16名でした．大学院博士前期課程修了者３名の進路は，民間企業２名，大学院博士後期課程１名でした．また久島桃代さん，謝陽さんは，本学大学院人間文化創成科学研究科研究院研究員として，研究活動を行っています．

地理学教室教員が2016年度に参加した主な教育研究プロジェクトには，全学震災復興支援プロジェクトチームとして，水野は教育科学，保育児童学，附属学校園の先生方とともに，５年間の学修ボランティアの報告書をまとめました．また学長裁量経費を得て，小林は2016年９月，熊谷は７月と11月に，学部学生を連れて岩手県陸前高田市を訪ねました．これらの実習やボランティアについては，その一部を本学公式ＨＰ（グローバル文化学環ＨＰ，お茶大ニュースほか）で知ることができます．これら以外に，教員それぞれが科学研究費を代表・分担で獲得しており，その内容については本学公式ＨＰの「学部・大学院」→「研究者情報」でご覧ください．

最後に，2016年度に実施した巡検の一覧と，教室構成員が公表した主な研究成果一覧を掲載します．８月に実施した高岡巡検の内容については，本誌の巡検報告をご覧ください．

構成員一同，地理学の教育・研究にこれからも着実

に努力していく所存です．本誌のさらなる愛読と，これからもご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます．

（2016年度学部地理学コース主任　長谷川直子）

2016年度実施の一日巡検・大巡検（一覧）

４月　御茶ノ水（水野）
　　一日巡検の事前授業（水野）
５月　成城・田園調布（宮澤）
６月　和光～成増（長谷川）
　　茅ヶ崎市（今野）
７月　文京区その１（長谷川）
８月　高岡（大巡検，水野）
10月　幕張（伊藤）
　　浅草（横山）
　　多摩ニュータウン（宮澤）
11月　吉祥寺（水野）
２月　文京区その２（長谷川）

（以上のほかに，グローバル文化学環が実施する巡検があり，地理学コースとの間で巡検履修の相互乗り入れをしています）

2016年度に公表した主な研究成果（一覧）

執筆物

石原弘美　2016．首都直下地震発生時の帰宅抑制の促進に関する研究－従業員の情報ニーズと企業の帰宅困難者対策に注目して．お茶の水地理 55：21-30.

お茶の水女子大学気仙沼学修支援プロジェクト(代表：水野　勲）編 2017.『気仙沼学修支援プロジェクト報告書 2012～2016年度』お茶の水女子大学.

久島桃代 2017.「からだ」という空間－フェミニスト地理学の誕生からロビン・ロングハ―ストまで．空間・社会・地理思想 20：85-96.

Kumagai, K. and Yoshida, Y. 2016. Preface to the Special Issue:“Rethinking Gender and Geography in Japanese Contexts”. *Geographical Review of Japan Series B* 89(1)：1-3.

Kumagai, K. 2016. Place, Body and Nature: Rethinking Japanese Sense of Fudo and Minamata Disease. *Geographical Review of Japan. Series B* 89(1)：32-45.

熊谷圭知 2017．お茶大「陸前高田実習」で何を学んだか？　わたしたちに何ができるか？　『被災地復興における「コミュニティの役割」』2015年度グローバル文化学環 地域研究実習Ⅱ報告書 Vol.5：67-73.

Kuramitsu, M. 2016. *La ‘ei Samoa*: From Public Servants’ Uniform to National Attire? *The Journal of Polynesian Society* 125(1)：33-57.

Kuramitsu, M. 2016. Samoan Pioneer Wives and ’Home’：From the Experiences of Living in Japan more than 20 years. *Geographical Review of Japan. Series B* 89(1)：14-25.

倉光ミナ子 2016．ファアファフィネ：南太平洋・サモアの多様な性．天理大学人権問題研究室紀要　19：49-57.

倉光ミナ子 2016．「参加」からみた「国際参加プロジェクト」の再考－第９回「国際参加プロジェクト（インドネシア）」を事例に．アゴラ 13：19-27.

倉光ミナ子 2016．「国際参加プロジェクト」の難しさとやりがい：インドネシア・ニアス島での活動の経験から．井上昭洋監修『大学ができる国際協力の総合的研究』(平成26～27年度地域文化研究センター共同研究会「大学ができる国際協力の総合的研究」報告書）：25-34.

倉光ミナ子　2016．南太平洋の島々－サモアの社会と文化．地理・地図資料 2016年度２学期②：７-10.

倉光ミナ子 2017.在日サモア人妻の子育てに関する一考察．第34回日本オセアニア学会研究大会（松江しんじ湖温泉・すいてんかく）.

小森梨恵 2016．目黒区自由が丘におけるイメージ評価の分析　：　利便性，親密性，流行性，安全性の観点から．お茶の水地理 55：31-40.

中井　瞳・宮澤　仁 2016．高齢者を「呼び寄せる」街横浜市都筑区．多摩ニュータウン研究 18：41-55.

長谷川直子　2016．ご当地グルメを通じて風土を理解する（13）350年の伝統のはなし．地理 61(5)：76-81.

長谷川直子 2017．地理でコミュニケーション！（１）地理のアウトリーチ・科学コミュニケーション活性化のために．地理 62(1)：4-9.

畠山輝雄・宮澤　仁 2016．地域包括ケアシステム構築の現状－地理学における自治体アンケート調査の結果から．地域ケアリング 18（14）：65-68.

三浦尚子 2017．精神病床と障害者支援施設．障害者の地域生活を支えるサービス．就労支援系サービスと障害者雇用．宮澤　仁編著『地図でみる日本の健康・

医療・福祉』132-135, 136-139, 140-143. 明石書店.

宮澤　仁編著　2017.『地図でみる日本の健康・医療・福祉』明石書店.

口頭発表・講演・ポスターセッション

小野坂知子 2017. 和歌からみたコンテンツ・ツーリズムの枠組みー歌枕の類型表現と旅の形成過程に注目してー. 日本地理教育学会全国地理学専攻学生卒業論文発表大会（東京学芸大学).

久島桃代　2016.　農村に移住する若い女性たちの実践と場所感覚ー福島県昭和村・からむし織体験生「織姫」のライフストーリーから. 経済地理学会関東支部７月例会（東京農業大学).

久島桃代 2016.「障害」・他者化・フィールドワーク. 2016年度人文地理学会大会（京都大学).

熊谷圭知 2017. お茶大「陸前高田実習」で何を学んだか？　わたしたちに何ができるか？　陸前高田グローバルキャンパス・大学シンポジウム（陸前高田市コミュニティホール).

熊谷圭知 2017. 移動・開発・場所とフィールドワークーパプアニューギニアの動態地誌. 第34回日本オセアニア学会研究大会（松江しんじ湖温泉・すいてんかく).

シャチクリ・メルシャト 2016.「チャイ」（chay）から見るウイグル族社会の日常生活文化とその変容ー「第三の場所」と社会関係資本の視点から. 経済地理学会関東支部７月例会（東京農業大学).

長尾悠里　2017.　学校統合への葛藤が潜在化した地域における統合要因の分析ー埼玉県秩父市大滝地区を事例に. 日本地理教育学会全国地理学専攻学生卒業論文発表大会（東京学芸大学).

長谷川直子　2016.　アウトリーチの１手段として授業成果を発信する. 2016年地球惑星科学連合大会（幕張メッセ).

長谷川直子　2016.　大学授業成果の社会発信の効果と課題. 日本科学教育学会第40回大会（ホルトホール大分).

長谷川直子　2016.　大学の授業成果の出版によるアウトリーチ効果の検証　「地理×女子=新しいまちあるき」の読者アンケート結果から. 2016年度日本地理学会秋季学術大会（東北大学).

長谷川直子　2016.　高大連携による地理学巡検の実践. 2016年度日本地理学会秋季学術大会（東北大学).

長谷川直子　2016.　新しいまちあるき. Ｇ空間Ｅｘｐｏ日本地理学会主催シンポジウム「新しいたびー地理コンテンツの愉しみ」（日本科学未来館).

長谷川直子　2017.　大学の授業成果の出版による波及効果の省察ーメディアを通じたアウトリーチの視点から. 2016年度日本地理学会春季学術大会（筑波大学).

長谷川直子 2017. 地理学のアウトリーチ・科学コミュニケーション活性化のために（シンポジウム趣旨説明). 2016年度日本地理学会春季学術大会(筑波大学).

平野　悠　2016.　大都市都心地域における子どもの放課後生活の特徴と規定要因の考察. 東北地理学会春季学術大会（宮城教育大学).

平野　悠　2016.　大都市都心地域における子どもの生活と社会ー空間関係の考察ー東京都中央区湾岸地区を事例に. お茶の水地理学会（お茶の水女子大学).

三浦尚子　2016.　日常的な諸活動にみる精神障害者の社会的包摂ー「ケア空間」の活用に注目して. 日本地理学会・東北地理学会秋季学術大会（東北大学).

水野　勲 2016. 原発ハザードマップと, 反事実的条件法によるエクメーネのカタストロフ. 日本地理学会秋季学術大会（東北大学).

宮澤　仁 2017. ＥＰＡ看護師・介護福祉士候補者受入れ施設の特徴と立地. 科学研究費補助金 基盤研究（Ｂ)「介護・看護労働への外国人労働者の参入と地域労働市場」研究集会（日本福祉大学).